

血液内科の研修について

2017年現在、血液内科は常勤医1名、外来非常勤医2名の診療態勢です。常勤医は血液専門医・指導医、総合内科専門医で、当科は日本血液学会の血液研修施設に認定されています。

主な診療内容は造血器悪性腫瘍の化学療法です。高齢者人口の増加に伴い血液腫瘍も高齢者の患者さんが増加しています。悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの患者さんを中心に入院、外来で化学療法を行なっています。これらの造血器腫瘍は比較的化学療法の効果が期待できるため積極的な治療を行っています。当科での研修により造血器腫瘍の診断、化学療法の計画と実施、また副作用などに対するマネジメントなどを学ぶことが出来ます。造血器腫瘍以外では特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血などの診断、治療を行っています。

平成28年度の血液腫瘍新患数：悪性リンパ腫17名、骨髄異形成症候群3名、多発性骨髄腫3名、慢性骨髄性白血病1名、その他（急性白血病、本態性血小板血症など）9名。